

宮本隆治・なおみあき「雨上がりのビギン」

久仁 京介

約1年ほどの時間をかけて、元NHKアナウンサーの宮本隆治さんと、五泉市出身のなおみあきさんのデュエット作品「雨上がりのビギン」の発売にこぎつけ、新潟との距離が近づけた、ふたたびつながりが芽生えたような気がしています。

「雨上がりのビギン」内容は、かつて別れた恋人と、思いがけない再開する。

なおみあきさんが演じるのは、雨上がりの人が行き交う街の雑踏の中、突然むかし愛し合っていた恋人に声をかけられた。

さて、どうなるかという設定です。懐かしい思いが交錯する中で、「ふたりの場所をもう一度探さないか」と、やさしい言葉で促される彼女、元の鞘に収まっていこうか、という設定。明日のしあわせが再び見えてこようかというドラマ設定です。

なおみあきさんという人も、明るい顔の中にどこか憂いがちな風貌がこの作品の主人公とかぶってきます。

そして、なおみあきさんが唄うソロ作品にも触れておきましょう。「愛に揺れる」という作品は、YouTube「久仁京介の世界」からの抜粋で、先ほどの憂いを秘めた彼女の風貌がそのまま重なっているような作品です。

いま幸せの絶頂にいる主人公の彼女には、見てはいけない、見えてはいけなはずの彼の心の中が透けて見えてしまう潜在する能力、直感力があるのですが、それは不幸なこと。

やがてくるだろうという悲しみに遭遇する前なのに、自ら別れてしまおうと決心してしまう。温もりのある二人のベッドを抜け出すと、彼から飛び立ってしまいます。

女性は恋をしている今この時、その瞬間瞬間にも自分はもう若くないと、思ってしまうものなのでしょうか。

主人公はその恐怖感から逃げ出してしまいます。愛が強いということは不幸なことなのか、そんな歌に思えてきますが、お聴きいただく皆さんのご判断に委ねましょうか。 作者はこのドラマでイメージした場所がどこかとは問いませんが、ヨーロッパのある小さな都市のアパートメント。歌の始まりは、朝の静寂をハイヒールがコツコツと響く音を忍ばせ、タクシーを拾って駅へ駆け込むところから始まります。こんなロマンチックを秘めた大人のラブソングをお楽しみ頂けたらと思います。

一方、司会者を本業にする宮本隆治さんが、歌手が本業の宮本隆治ですぞと云わんばかりにアピールし、意気込みを見せている宮本隆治さんが今、歌手のスタートラインに立っている、いまご紹介した「雨上がりのビギン」ですが、